

第105回 日本泌尿器科学会総会

The 105th Annual Meeting of the Japanese Urological Association

プログラム

協賛：山形県立総合医療センター 提供

会長	中川 昌之 鹿児島大学大学院医学総合研究科 泌尿器科学分野 教授
会期	2017年4月21日[金]～24日[月]
会場	城山観光ホテル・かごしま県民交流センター・宝山ホール

一般演題ポスター

一般演題ポスター84

排尿機能/臨床

● 2017-04-23 14:00 - 15:00 📍 ポスター会場5 (かごしま県民交流センター 東棟4F 大研修室4)

PP84-06

頻尿の治療薬の即効性効果の比較検討 —30分前の頓服でロキソプロフェンは最も有用であった—

[演者] 石井 泰憲:1

[著者] 加藤 温:2, 木村 直樹:2, 堀内 宗真:2, 山本 幸:3, 本田 圭:3, 小堀 喜友:4, 石井 元:5

1:石井クリニック・浦和, 2:JHO埼玉メディカルセンター 泌尿器科, 3:三井記念病院 泌尿器科, 4:独協医科大学 越谷病院, 5:厚木市立病院 泌尿器科

電車、車、バス、飛行機など乗り物での旅行・出張や、映画、コンサート観劇、会議などは、途中で排尿に行きにくいものです。このような場合での頻尿、尿意切迫状態になることが困ると思っ参加できない患者も少なくない。頻尿・尿意切迫が起きては困る時間帯を有する症例を対象とし、困る時間帯の前に有効だと考えられる薬、すなわち (1) 尿の産生を少なくする薬、(2) 膀胱容量を増加させる薬、(3) 精神安定剤などが有効ではないかと考え、その有効性を検討した。(1)尿の産生を少なくするNSAIDs(ロキソプロフェン)、(2)膀胱容量を増加させる薬で、抗コリン薬 (イミダフェナシン、フェソテロジン、ソルフェナシン)、β3刺激薬 (ミラベクロン)、(3)精神安定剤 (ロフラゼプ) などを投与した。薬剤の有効血中濃度になる時間を考え、薬剤ごとに服用後効果が出る時間推定し、予防的に服用時間を考慮して頓服させ即効性と予防効果を比較検討した。頻尿防止の目的の排尿間隔が3時間以上の達成・満足率はロキソプロフェン75.2% (70/93)、イミダフェナシン63.6% (7/13)、ミラベクロン30.7% (4/13)、フェソテロジン30.7% (4/13)、ソルフェナシン23.1% (3/13)、ロフラゼプ7.6% (1/13)。その結果、パイロット・スタディであるが、即効性に頻尿の予防抑制はする薬剤で30分前のロキソプロフェン投与は最も効果が認められた。安全に使用するためには、腎障害、心機能、水分貯留と関連するBNPや胃腸症状のチェックなどが使用前後に必要だが、ロキソプロフェンは30分前の頓服で効果があり、有用で便利な薬剤と考えられた。

ロキソニンが頻尿・治療薬の中では即効性があり、最も有用であった。

『乗り物酔い』防止薬と同様に患者の要望に応じて、

事前に頓服での有効性効果が、十分期待できると考えられた。